

## 1 経験者採用 A

### (1) 一般事務職、教育事務職、小中学校事務職

兵庫県では、少子高齢化の進展や人口減少、東京一極集中の是正等の構造的な課題に対応し、将来にわたり活力ある地域社会を構築していくため、「兵庫県地域創生戦略」を策定し、地域創生に向けた取組を推進しています。

最近では、若者を中心に人口の転出超過の傾向が大きくなっており、人口の「社会増」対策として、UJI ターンの取り組みは不可欠となっています。

そこで、今後、兵庫県への UJI ターンを促進していくため、兵庫の強みを活かしてどのように取り組むべきか、具体的方策について述べなさい。

### (2) 農学職

- ① 今後、本県農業の生産を継続し、地域を持続的に発展させていくためには、農業の担い手の確保・育成が不可欠です。

そこで、本県農業の現状を述べ、それを踏まえた担い手の確保・育成についての課題を挙げた上で、県としてこれを解決するための具体的な方策について、あなたの考えを述べなさい。

- ② 兵庫県は、近畿の水田面積の約3分の1を占めるとともに、畜産産出額では近畿の約6割を占める畜産が盛んな県です。このような本県において、耕種農家と畜産農家が連携する「耕畜連携」の取り組みが重要といわれています。

そこで、耕畜連携の意義を3つ挙げ、現在の農業や畜産が抱える課題を踏まえながら耕畜連携を進めるための具体的な方策について、あなた自身の考えを記述しなさい。

(①、②の課題から1題を選択)

### (3) 林学職

- ① 森林・林業施策の基本方針を定める森林・林業基本計画は、森林・林業基本法に基づき、森林・林業をめぐる情勢の変化等を踏まえ、おおむね5年ごとに変更することとされており、本年5月24日に新たな森林・林業基本計画が閣議決定されました。この新たな基本計画のポイントの1つに、本格的な利用伐期を迎えた森林資源の循環利用による「林業の成長産業化」があります。

また、本年6月2日に閣議決定された日本再興戦略2016においても、林業の成長産業化にむけた対策が打ち出されました。

そこで、林業の成長産業化を実現するための方策について述べなさい。

- ② 近年、豪雨や地震による災害が多発しています。それらの災害のうち山崩れや土石流などの山地災害による被害をできるだけ軽減するために、公助（公的機関による防災・減災対策）・自助（各個人や家庭で取り組む防災・減災対策）・共助（自治会等地域で取り組む防災・減災対策）の3つの観点からどのような方策があるか述べなさい。

(①、②の課題から1題を選択)

(4) 総合土木職

- ① 公共工事は、国民生活や経済活動の基盤となる社会資本を整備するものとして社会経済上重要な意義を有しており、その品質は、現在および将来の国民のために確保されなければなりません。

しかし、近年、地盤改良工事における施工データ改ざん、橋の耐震工事における不良データ隠蔽など、技術者の倫理観の欠如と思われる問題が一向に後を絶たない状況にあります。

そこで、こうした問題が発生する現状と課題を述べるとともに、過去に問題となった事例を示しながら、技術系公務員として、今後、どのように取り組むべきか、あなた自身の考えを具体的に記述しなさい。

- ② 近年、大規模地震、大型台風や集中豪雨等の自然災害による被害が頻発している現状を踏まえ、道路、河川、港湾等のインフラが本来有すべき機能を述べるとともに、過去に発生した大規模災害の事例を示しながら、防災・減災対策（ハード対策）上の留意点や技術的課題について、あなたの専攻・経験を活かして、具体的に記述しなさい。

- ③ ため池は、農業用水の安定供給機能のほか、県土の保全や水源かん養、生物多様性の確保など、多面にわたる機能を有しており、その機能の発揮により県民に多くの恵みをもたらしています。

そのため、本県では、平成 27 年 3 月に「ため池の保全等に関する条例」を制定し、県、市町、ため池管理者、県民の責務を定め、①適正な管理、②多面的機能の発揮の促進、③次世代への継承の 3 つの基本方針のもと、ため池整備などのハード対策と、ため池管理者はもとより、県民の参画と協働によるため池保全の取組の一環であるソフト対策を進めています。

そこで、ため池の老朽化による漏水や局地的な豪雨の発生の高まり、農業者の高齢化や減少、県民のため池保全への認識が低い現状を踏まえた上で、ハード対策とソフト対策にどのように取り組むべきか、これまでの取組事例を示しながら、あなた自身の考えを具体的に記述しなさい。

- (①～③の課題から 1 題を選択)

(5) 建築職

- ① 少子高齢化や人口減少が進展するなか、中心市街地の商店街の中には、空き店舗が増加し、シャッター通りとなっているところも見られます。  
まちづくりの観点から見て、商店街の衰退の課題を挙げた上で、これを解決するための具体的な方策について、あなたの考えを述べなさい。
- ② 2025年には団塊の世代がすべて後期高齢者になり、要支援・要介護者が増加すると予想されています。高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、日常生活圏域で医療、介護、住まい等が適切に提供される必要があります。  
10年後を見据えて、高齢者の住まいに関する課題を挙げた上で、これを解決するための具体的な方策について、あなたの考えを述べなさい。
- ③ 成熟社会において、公共施設には様々な機能が求められています。  
これからの公共施設に求められる機能を挙げた上で、そのうち特に重要と考える機能の設計にあたって、その機能が最大限発揮できるようにするための具体的なアイデアを提案しなさい。
- (①～③の課題から1題を選択)

## 経験者採用試験 論文試験課題

### 2 経験者採用B

#### 課題Ⅰ 各職種共通

県民が期待する兵庫県職員の姿を述べるとともに、その姿に向けて、あなた自身のこれまでの経験を活かしてどのように取り組んでいきたいか、自由に述べなさい。

#### 課題Ⅱ 〈一般事務職、教育事務職、小中学校事務職〉

次の文章は、「省庁移転」に関する、ある新聞の社説である。これを読んで、筆者の述べる①「省庁移転の必要性」、②「国の省庁移転方針の課題」、③「今後の対応」の論点を整理するとともに、地方創生の観点も踏まえ、あなたが考える省庁移転の効果について述べなさい。

#### 課題Ⅱ 〈農学職〉

- ① 本県の農業は、1戸当たりの経営耕地面積が全国の半分程度（兵庫県 1.08ha、全国 2.53ha）で、県内の耕地面積の9割以上を水田が占め、多くが水稻を主体とした小規模で高コストの農業者が多いのが現状です。

また、本県の農業就業人口のうち、65歳以上が7割以上を占め、販売農家の平均年齢は68.9歳と、他産業と比較して極端に高齢化しており、今後、県内の農業生産を維持できないことが懸念されます。

このため、今後、本県農業の担い手の確保・育成を図る必要がありますが、これらを推進するに当たっての課題を挙げた上で、県としてこれを解決するための具体的な方策について、あなたの考えを述べなさい。

- ② 兵庫県は、近畿の畜産産出額の約6割を占める畜産県であり、但馬牛を中心とする肉用牛生産、酪農や養鶏などが盛んです。

肉用牛、酪農のどちらかを選んで、それを振興する上での課題を挙げ、これを解決するための具体的な方策について、あなた自身の考えを記述しなさい。

(①、②の課題から1題を選択)

#### 課題Ⅱ 〈林学職〉

- ① 兵庫県では、平成28年3月に策定した「ひょうご農林水産ビジョン2025」に基づき、川上(原木生産)から川中(加工・流通)、川下(木材利用)までが一体となって、建築用から燃料用まで、余すところなく木材を有効利用するとともに、新たな木材需要や用途を開拓することにより、県産木材の利用促進を図ることとしています。

そこで、県産木材の需要を拡大・創出する方策について述べなさい。

- ② 近年、豪雨や地震による災害が多発しています。それらの災害のうち山崩れや土石流などの山地災害による被害をできるだけ軽減するために、森林の持つ公益的機能の維持・増進及び住民が自ら行う防災・減災活動の2つの観点からどのような方策があるか述べなさい。

(①、②の課題から1題を選択)

課題Ⅱ 〈総合土木職〉

- ① 公共工事は、国民生活や経済活動の基盤となる社会資本を整備するものとして社会経済上重要な意義を有しており、その品質は、現在および将来の国民のために確保されなければなりません。

しかし、近年、地盤改良工事における施工データ改ざん、橋の耐震工事における不良データ隠蔽など、技術者の倫理観の欠如と思われる問題が一向に後を絶たない状況にあります。

そこで、こうした問題が発生する現状と課題を述べるとともに、技術系公務員として、今後、どのように取り組むべきか、あなた自身の考えを具体的に記述しなさい。

- ② 近年、大規模地震、大型台風や集中豪雨等の自然災害による被害が頻発している現状を踏まえ、道路、河川、港湾等のインフラが本来有すべき機能を述べるとともに、防災・減災対策（ハード対策）上の留意点や技術的課題について、あなたの専攻・経験を活かして、具体的に記述しなさい。

- ③ ため池は、農業用水の安定供給機能のほか、県土の保全や水源かん養、生物多様性の確保など、多面にわたる機能を有しており、その機能の発揮により県民に多くの恵みをもたらしています。

そのため、本県では、平成 27 年 3 月に「ため池の保全等に関する条例」を制定し、県、市町、ため池管理者、県民の責務を定め、①適正な管理、②多面的機能の発揮の促進、③次世代への継承の 3 つの基本方針のもと、ため池整備などのハード対策と、ため池管理者はもとより、県民の参画と協働によるため池保全の取組の一環であるソフト対策を進めています。

そこで、ため池の老朽化による漏水や局地的な豪雨の発生の高まり、農業者の高齢化や減少、県民のため池保全への認識が低い現状を踏まえた上で、ハード対策とソフト対策にどのように取り組むべきか、あなた自身の考えを具体的に記述しなさい。

(①～③の課題から 1 題を選択)

課題Ⅱ 〈建築職〉

- ① 高度経済成長を背景に急速に整備された多くのニュータウンは短期間に住宅等が供給され、同世代が一斉に入居したために、居住者の高齢化が進んでおり、若年世帯を呼び込む必要があります。

このような郊外地に開発されたニュータウンへ若年世帯を呼び込むための課題を挙げた上で、これを解決するための具体的な方策について、あなたの考えを述べなさい。

- ② 既に住宅ストック数が世帯数を上回っており、空き家の増加が社会問題となっています。今後世帯数が減少することを考えれば、新しい住宅を造り続けるのではなく、子育て期や高齢期などのライフステージに適した中古住宅への住み替えを促進していく必要があります。

そこで、中古住宅の流通上の課題を挙げた上で、それを解決する具体的な方策について、あなたの考えを述べなさい。

- ③ 学校、病院、庁舎などの公共施設は、災害時に避難所や災害対策拠点として機能を継続する必要があります。

これらの施設設計にあたり、留意すべき事項を挙げた上で、設計の考え方を具体的に記述しなさい。

(①～③の課題から 1 題を選択)